

インテリジェンス研究における記号学(論)的アプローチの可能性と課題
—米国情報局(USIA)の組織アイデンティティの分析を通じて—

平松純一

報告構成

1. 研究の背景 / 問題提起
2. 理論的枠組 / データと分析方法
3. 調査結果
4. 記号学的アプローチの意義と可能性
5. 研究上の課題

1. 研究の背景 / 問題提起

現在のインテリジェンス研究の問題点

- インテリジェンス(intelligence)定義の乱立状態(資料 1, p.5)
- 論者・研究者中心のインテリジェンス研究
 - 国や組織の社会歴史的な文脈・違いが十分に考慮されているか？
 - ◇ 「intelligence」という語を多様な社会の現場の視点から見直す必要
 - ◇ 「What is intelligence?」から「How do different countries and institutions define intelligence?」へ(Davies, 2009)

新たなインテリジェンス研究の視角を求めて

- 経営学(と記号学)的に一国の組織単位でインテリジェンスの意味を考える
 - インテリジェンスを扱う組織を学ぶアプローチ(中西, 2011; Grey, 2012)
 - “Intelligence is organization”(Kent, 1951)
- ただし、経営学は学際的で、存在論、認識論、人間性、方法論の点で多様性
 - 本発表は、組織単位でのインテリジェンスの意味を考察するため、ソーシャル記号学の知見を活用して、米国情報局(USIA)の組織アイデンティティを分析する
 - なお、社会的構成主義者による組織研究は、人間・組織の言語的、文化的、シンボリックな側面に注目する
 - ◇ 経営学では長い間、組織の構造・設計問題と、文化・シンボルの問題は切り離された研究がなされてきた(Alvesson and Willmott, 2002)

2. 理論的枠組 / データと分析方法

組織アイデンティティ

- 定義と意義

- “組織としての我々は誰なのか？”
- 初期の研究では、組織の「中心的、持続的、独特の」特徴 (Albert and Whetten, 1985)
 - ◇ ただし近年では、組織アイデンティティの複合性、対立・矛盾、環境・時代に応じた変化を指摘する論者も (Kenny, Whittle and Willmott, 2011)
- 組織アイデンティティは、組織としての振舞い方、他組織との相違形成に影響
- 職業上の境界を考える上でも組織アイデンティティは中心的役割 (Alvesson and Willmott, 2002)
- 社会的構成主義者は、組織アイデンティティを直接観察することはできないと考える
 - よって、特定の文脈下における、アクターによる意味づけの過程から考えていく→言語的实践 (パロール、ディスコース) 分析へ
 - 組織アイデンティティと組織イメージの相互依存・影響関係の指摘 (Gioia, Schultz, and Corley, 2000)

組織アイデンティティの動的形成

記号学(論) (semiology/semiotics)

- 記号学(論)とは
 - 「人間の「意味づけ」する営みの仕組みと意義—その営みが人間の文化をいかに生み出し、維持し、そして組み替えていくか—」を考える研究分野 (池上, 1995)
 - 「記号現象」は、あるもの(記号表現)が他のあるもの(記号内容、対象)の代わりとしてそれを表わす、ことで生じる
- さまざまな学派の存在 (cf. Saussure, 1916; Peirce, 1931; Morris, 1938; Eco, 1976)
 - 組織論の先行研究としてはパース記号論を発展させた Stamper (2000) らの研究があるが、機能構造主義的で、グランド・セオリー志向

ソシユール記号学 (semiology) の特徴 1

- 言語記号の特殊性・重要性
 - 他の一切の記号との違いは、非記号性からの出発
 - ◇ 個々の単語と対象に必然性はなく、それだけでは何も意味しない
 - 言語記号は、社会的歴史的に作られる(恣意性)
 - ◇ 組織も、言語的枠組みを通して実現・理解される
- 実体から関係へ
 - 関係そのものが、事物と意味を作る
 - ある人間・現象を知ることというのは、それが他のものと保っている関係の網を知ること
- 言語能力(ランゲージュ)、言語体系(ラング)、言語実践(パロール)の並存・相互依存
 - 関係(=布置)はラングに属し、関係樹立活動(布置化)はパロールの次元にある
 - パロールによって新たな意味が生まれるが、意味はラングの価値体系を参照

ソシユール記号学 (semiology) の特徴 2

データと分析方法

- 以上の理論的枠組みに基づいて、米国情報局 (USIA) に関する組織内外のアクターが生み出す言語データから、USIA がどのように組織アイデンティティを形成・維持・変化させていくのかを分析
 - 特に、USIA が自己のアイデンティティ形成において、「intelligence」をどのように捉えていたかに注目
 - 組織アイデンティティと組織イメージとの関係・動的形成を仮定
 - データは、任務規定、規則・規範、通信、報告書、広告、報道資料などを使用 (Soenen and Moingeon, 2002)

3. 調査結果

米国情報局 (USIA) の概要 (資料 2, pp.5-7)

- 存続期間: 1953 年 8 月 1 日～1999 年 10 月 1 日
- 米国史上初の平時かつ公然の情報機関、組織内には調査局も
- 国務省からの指針を受け、ラジオ放送 (Voice of America, VOA)、図書館運営、出版、国際交流などを実施
 - 各国に支局 (United States Information Service, USIS)
- 60 年代半ばより「propaganda」の代わりに「public diplomacy」
- 1965 年、ベトナム・サイゴンに米国統合パブリック・アフェアーズ局 (JUSPAO) を設立
 - 初めて、USIA 長官直属の部下が民事・軍事を統合した情報作戦を実施
- カーター政権時の 1978 年、International Communication Agency (ICA, USICA) と名称変更
 - 「information」がフランスなどで諜報と誤解される可能性
 - レーガン政権 (1981 年) 以降、USIA に戻る

USIS の活動

公然情報機関 USIA と非公然情報機関 CIA

USIA の言語記号関係

USIA の組織アイデンティティ構成要素

調査結果のまとめ

- USIA にとっての記号「intelligence」
 - 当初は情報に関する意味と漠然と理解し、次第に国家の秘密情報活動を行う機能・組織を示すものとして認識
 - ◇ CIA は USIA とは異なるプロパガンダ (black propaganda) の担い手 (資料 4-6, pp.10-13)

- ◇ いわゆる「OSINT」面での評価は見られない
- IC の参加・協力拒否、東側諸国に CIA と同視された経験から、「intelligence」にネガティブなイメージも持つ(意味の墮落)
- USIA の組織アイデンティティ
 - 組織内外のアクター (CIA、DoD、State、メディアなど) との関係・やりとりの中で、構成要素の力点の変化
 - 「intelligence officer」→「(social science) researcher」(資料 3, pp.7-10)
 - ◇ 人事においては、元 CIA 職員や CIA のカバリーを積極的に排除

4. 記号学的アプローチの意義と可能性

記号学的アプローチの意義と可能性

- 国だけでなく、組織などの多様な社会ごとに言語記号「intelligence」の捉え方が異なること、また、その形成・変化の過程が理解できる
 - 「intelligence」が情報の収集・分析・配布・評価(いわゆるインテリジェンス・サイクル)だけを意味するとは限らない
- 各国の歴史的社会的文脈の中で、「intelligence」の意味は常に変化の可能性を秘めている
 - 他の言語記号・社会との関係の中で考えていくことが大切
 - 組織では自己のアイデンティティ形成との関係で、独自の記号解釈
 - ただし、組織が生み出す記号は、ソーシャルの考えとは異なり、必ずしも排他的差異の体系とはならない(cf. グレー・プロパガンダ)
- 応用可能性
 - 比較研究
 - ◇ 各国の言語体系で用いられる「intelligence」、「諜報」、「renseignement」、「inteligencia」の意味は？それは具体的文脈でどのように変化していくのか？
 - 情報分析技術の研究
 - ◇ アナリストごとの記号の捉え方に違いはあるか？ どのように違うのか？
 - ◇ cf. Knowledge Representation in Neural Systems (KRNS) program

5. 研究上の課題

研究上の課題

- 一次資料の充実
 - 過去の組織研究ではインタビューが難しく、二次資料依存傾向
 - 具体的には、USIA 調査室、グレー・プロパガンダ、CIA・IC と USIA の折衝に関する資料
- 記号学(論)の多様性
 - 他の学派から USIA はどのように説明されるか？
 - 他の記号との関係

☆ 例えば、写真、音声、動画、儀式など

資料 1 さまざまなインテリジェンスの定義

- 「インテリジェンス」とは、「政策立案者が国家安全保障上の問題に関して判断を行うために、政策立案者に提供される、情報から分析・加工された知識のプロダクト」あるいは「そうしたプロダクトを生産するプロセス」(小林, 2012)
- 「国益のために収集、分析、評価された、外交・安全保障政策における判断のための情報」(小谷, 2012)
- 「収集されたインフォメーションを加工、統合、分析、評価及び解釈して生産されるプロダクトで、国家が安全保障政策を企画立案・執行するために必要な知識」「ただし、広義には、インテリジェンスが生産されるプロセス、工作活動、防諜活動やインテリジェンス組織まで指すこともある。」(PHP 総合研究所, 2005)
- “Intelligence is secret, state activity to understand or influence foreign entities.”(Warner, 2002)
- “1. The product resulting from the collection, processing, integration, evaluation, analysis, and interpretation of available information concerning foreign nations, hostile or potentially hostile forces or elements, or areas of actual or potential operations. 2. The activities that result in the product. 3. The organizations engaged in such activities.”(US Department of Defense, 2013)

資料 2 米国情報局 (USIA) の法制度・歴史

USIA に関する法制度・議会委員会

- Reorganization Plan No.8 of 1953
 - USIA の設立・権限・構造などを規定した行政命令
- Smith-Mundt Act of 1948
 - USIA プロパガンダの法的基礎、国内活動禁止を規定
 - Fulbright 上院議員らの意向により、学術・文化活動に関しては国務省に留保
 - 議会の監督機関として Advisory Commission on Information /Advisory Commission on Educational Exchange (1977 年に ICA 設立に併せ統合、Advisory Commission on Public Diplomacy となる)
- Foreign Service Act of 1946
 - USIA 職員の身分、給与、待遇などを規定
- Pell-Hays Act of 1968
 - Foreign Service Information Officer という幹部職創設。これにより Foreign Service Officer と同様、大使 (Ambassador) への昇任が初めて可能に
- 上院 Committee on Foreign Relations / 下院 Committee on Foreign Affairs で法案審議

- 予算法として Departments of State, Justice, and Commerce, the Judiciary, and Related Agencies appropriation acts

時代を経て変わる「propaganda」機関 USIA 1

[40-50s] ソ連・東側諸国のプロパガンダの対策として開始

- NSC 10/2 (June 18, 1948)
- Senate Resolution 243 (March 22 1950)
"the international propagation of the democratic creed be made be an instrument of supreme national policy - by the development of a Marshall Plan in the field of ideas."
- NSC 68(April 7, 1950)
 - 米国史上初めて、公式に「four basic means of influencing foreign affairs - military, economic, diplomatic and psychological」を重奏的に使用するよう求める
 - ただし、「propaganda」という言葉を公に使うのは避け、「foreign information」「overseas information」で代用

[60s] 「public diplomacy (PD)」の登場

- 1960 年代半ばに、元外交官 Edmund Guillion が発案
"It seemed the nearest thing in the pure interpretation of the word to what we are doing. But "propaganda" has always had a pejorative connotation in this country. To describe the whole range of communications, information and propaganda, we hit upon "public diplomacy" (1967)
- 1968 年 7 月 22 日、Dante Fascell 下院議員は「The Future of United States Public Diplomacy」を提出

時代を経て変わる「propaganda」機関 USIA 2

[70s] ICA (USIA) に新たな任務「second mandate」

- 国務省の教育・文化活動を ICA に移し、ICA は一方向コミュニケーションから双方向 (two-way) コミュニケーションへ
"The agency must not operate in a covert, manipulative or propagandistic way." (Carter, 1977)
- ICA の名前は、コンピュータを使って 150 もの候補から検討
- しかし、1978 年 6 月 15 日の Washington Post の報道では、海外で ICA と CIA の混同が発生 → 再び USIA へ

[80s] 「Project Democracy」 PD の更なる変化

- 1950 年代に CIA が行っていた中道左派への資金提供活動を、公然活動として復活
 - このとき、「For reasons of credibility」として、CIA は参加させないようにした
- 議会の一部の議員は「Project Right-Wing Democracy」などと抵抗し、妥協案として非政府組織の National Endowment for Democracy も設立
 - Oliver North は「Project Democracy」の用語を、中央アメリカでの自身の非公然活動のとして使用。また彼は、彼の支持者たちは National Endowment for the Preservation of

Liberty を設立し、NED と混乱

- 国務省は、「Office of Public Diplomacy for Latin America and the Caribbean」という部署を立ち上げ、国内プロパガンダを開始
 - Henry E. Catto, Assistant Secretary of Defense for Public Affairs (ブッシュ父政権時代の USIA 長官)は、「public diplomacy」に“totally different meaning”

時代を経て変わる「propaganda」機関 USIA 3

[90s] 「A Mini-Commerce Department」の誕生 (Snow, 2010)

- 1993 年の NAFTA 締結以降、「trade and economics」促進が USIA の主たる任務となる
“The USIA uses “national security” and “democracy” interchangeable with “free enterprise” and “the free market.” Economic prosperity is defined as “expand exports, open markets, assist American business, and foster sustainable economic growth.”
“Educational exchange programs quickly became useful tools to promote the US economic model and global integration.”

資料 3 USIA の調査室

USIA の調査室 1

- Office of Intelligence and Research (OIR)
 - 1954 年から 1959 年まで存在した、USIA 史上唯一「intelligence」の名称が付いた部局
 - しかし、Intelligence Community に加入できず
 - 局長は Henry Loomis (後の VOA 長官)
 - 1954 年、USIA、CIA、国務省は共同で USIA の“intelligence needs”について調査研究
“USIA has essential needs for the following type of intelligence and intelligence information:
Selected segments of societies...
Media Research Analysis...
Foreign Propaganda...
Impact of factors affecting public opinion and attitudes and the net impact of such factors on the people of a country...
Descriptive Detail, that is, unclassified or declassified intelligence information to supplement the content of USIA media...
International Communism...”
 - 同局は、CIA・国務省と共に上記のインテリジェンスを生産
 - この時 OIR には「intelligence officers」が勤務

USIA の調査室 2

- Research and Reference Service (IRS)
 - 142 人のスタッフ、ほとんどが文民職員

- ただし、operators > researchers 文化
- 各地域局には「social scientists<社会科学者>」が「intelligence reports from other agencies of governments」などの資料で調査
- IRS 局長は、「maintained relations in behalf of USIA with intelligence community - of which USIA is not a member...」
- 1963 年に組織改編
- メディア研究、海外世論調査など 5 つの重点領域
- 「World Opinion Surveys」開始
- USIA だけでなく、国防総省、USAID、ACDA にも調査結果を提供

USIA の調査室 3

- Office of Policy and Research (IOP)
 - 1966 年 7 月設立
 - Planning-Programming-Budgeting System 導入の影響 (impact 重視へ)
 - 3 つの部署があり、調査は Research and Analysis Staff が担当
 - 9 人の職員で構成される Communist Propaganda Division
 - 16 人の職員で構成される Special Studies Division
 - 「broad studies not related to USIA media products」を担当
 - 16 人の職員で構成される Media Analysis Division
 - Special Studies と Media Analysis は 1967 年 10 月に Program Analysis Division に統合

USIA の調査室 4

- ICA 時代
 - Office of Research
 - 6 部門
 - 5 部門は地域調査で、Foreign Service Officer が管理
 - 残り 1 部門は Communications Media Research Branch
 - FSO 以外は社会科学者
 - 海外世論やプログラム評価に関する調査
 - 1980 年代初期には USIA 長官に直接報告する自立的部署となった

USIA の調査室 5

- Active Measures Working Group
 - 1981 年、国務省の中級幹部たちが東側プロパガンダ、特に偽情報活動 (Active Measures) に対抗するためのより堅実な方法を検討するため設立
 - 初代グループ長は、国務次官補 Dennis Kux 大使
 - 国務省以外ではおもに、CIA、FBI、国防総省・DIA、ACDA、司法省、USIA の代表が参加
 - Report-Analyze-Publicize 手法の採用

- 1970 年代半ば以降、CIA による非公然活動実施が困難
 - 公然プロパガンダ活動による対策へ
 - チェコのインテリジェンス機関副長官 Ladislav Bittman や、KGB 東京支局長 Stanislav Levchenko による情報提供
- Office to Counter Soviet Disinformation and Active Measures
 - 1983 年設立
 - 局長は Herbert Romerstein

USIA の調査能力の評価 1

- 初期(1953-1954)調査
 - USIA 職員のインテリジェンスに対する理解・見解
- ”It is commonly accepted in USIA that USIA and intelligence operations should be closely coordinated. However, there is disagreement as to the exact relation of the research and intelligence functions, and as to the degree to which intelligence is itself a research activity. One shades into the other. As a result, research and intelligence operations are reported to have traditionally vied with each other in hostile fashion. The term ”intelligence” is equivocal, encompassing both ”cloak and dagger” work and also the more routine pedestrian examination of documents. Intelligence in government is defined as anything in which anyone happens to be interested.”Anything they want to call intelligence they do, and this gives them the right to classify it.”” (Bogart, 1976, 1995)

USIA の調査能力の評価 2

- 「an able regional division chief in the Research and Reference Service」の嘆き(Elder, 1967)
- ”Operators don’t know what research is for, don’t know what questions to ask, and why they get the answers they don’t. They are suspicious that the researchers are trying to usurp their policy-making jobs. Researchers only clarifies the real alternatives, within assigned terms of reference. The researcher realizes that other factors may have to be taken into consideration in policy formulation.He only wants the policy-makers to realize the consequences of their decisions.”

USIA の調査能力の評価 3

- Advisory Commission on Information 報告書
- ”The use of research has been seriously neglected in USIA to the detriment of the program.”(1966)
- ”one of the weakest and least supported elements in USIA””in too many cases the Agency does not know why it is doing what is doing. A patchwork research program, together with a lack of appreciation of the importance and usefulness of research in the difficult psychological dimension of foreign opinion and attitudes, remains a principal weakness.”(1968)
- Office of Research ”should be given independent organizational status””many Agency officers

are not sufficiently aware of research as an indispensable policy and program guide”(1980)

資料 4 USIA と IC の関係

USIA と IC の関係 1

- 基本的に「arm's length」(Dizard, 2004)
- プロパガンダ領域での競合
 - CIA とは、出版、ラジオ放送、教育研究機関・非政府団体支援など、情報・文化活動双方において
 - グレー分野での協力や 80 年代には Active Measures Working Group で省庁横断活動
 - 両情報機関のプロダクトの違いは、「deniability」
 - 国防総省とはラジオ (Armed Forces Network) などにおいて

USIA と IC の関係 2

- USIA と NSC・IC の距離
 - USIA は NSC 常任メンバーになれず、IC の参加不可
 - 大統領と近い関係にあった長官 (Murrow, Wick など) たちも拒否
- 最高機密についてはアクセスを一切許されず
e.g. U-2 事件、大韓航空機撃墜事件
- USIA と CIA の不和
 - USIA は「credibility」維持のため、CIA との接触到躊躇
 - USIA に CIA 出身者・カバールをいれない努力
 - それでも、東側からは CIA と同様の「intelligence agency」であると揶揄される
 - USIA 職員は、CIA 主催の black propaganda 訓練の参加拒否
 - 秘密情報を使った、USIA プロダクトに対する情報操作
e.g. 大韓航空機撃墜事件後の、NSA による国連大使スピーチ情報操作
 - VOA を使った暗号放送

“Although the Voice of America operated under a congressional mandate to report the news accurately and objectively, it made exceptions, such as when it transmitted cloak-and-dagger codes to U.S. spooks abroad.”(Snyder,1995)

資料 5 CIA と米国の Intelligence Community

Central Intelligence Agency (CIA)

- National Security Act of 1947
 - CIA の任務規定
(3) to correlate and evaluate intelligence relating to the national security, and provide for the appropriate dissemination of such intelligence within the Government using where appropriate existing agencies and facilities...

(5) to perform such other functions and duties related to intelligence affecting the national security as the National Security Council may from time to time direct.

- NSC 10/2 (June 18, 1948)
 - CIA に「propaganda」を含む「covert operations」を実施するよう指示
 - 1950 年代初めにはラジオ局 (RFE/RL/RFA) を開設・運営
 - 出版社・民間非政府団体・教育研究機関への資金提供

米国の Intelligence Community 1

- National Security Council Intelligence Directive No.1 (January 19, 1950)

”To maintain the relationship essential to coordination between the Central Intelligence Agency and the intelligence organizations, an Intelligence Advisory Committee consisting of the Director of Central Intelligence, who shall be Chairman thereof, the Director, Federal Bureau of Investigation, and the respective intelligence chiefs from the Department of State, Army, Navy, and Air Force, and from the Joint Staff (JCS), and the Atomic Energy Commission, or their representatives shall be established to advise the Director of Central Intelligence. The Director of Central Intelligence will invite the chief or his representative, of any other intelligence Agency having functions related to the national security to sit with...”

 - 当初は、他のインテリジェンス機関の存在を示唆した内容
- National Security Council Intelligence Directive No.3 (January 13, 1948)

”For the purposes of the intelligence production, the following division of interests... shall serve as a general delineation of dominant interests””Political, Cultural, Sociological Intelligence ... Department of State”

 - 国務省のインテリジェンスについて方向性が与えられる

米国の Intelligence Community 2

- Executive Order 11905 (February 18, 1976)
 - Intelligence Community を構成する「intelligence organizations」を列挙

”Foreign intelligence which means information, other than, foreign counterintelligence, on the capabilities, intentions and activities of foreign powers, organizations or their agents;”

”Special activities in support of national foreign policy objectives means activities, other than the collection and production of intelligence and related support functions, designed to further official United States programs and policies abroad which are planned and executed so that the role of the United States Government is not apparent or publicly acknowledged.”

 - 一部の用語に政府内での定義が与えられる
- Executive Order 12036 (January 24, 1978)
 - CIA は”Collect foreign intelligence, including information not otherwise obtainable, and develop, conduct, or provide Support for technical and other programs which collect national foreign intelligence””Produce and disseminate foreign intelligence relating to the

national security, including foreign political, economic, scientific, technical, military, geographic and sociological intelligence...”

- 国務省は”Overly collect foreign political, sociological, economic, scientific, technical, political-military and associated biographic information ”

米国の Intelligence Community 3

- Executive Order 12333 (December 4, 1981)
 - 目的として、”The United States intelligence effort shall provide the President and the National Security Council with the necessary information on which to base decisions concerning the conduct and development of foreign, defense and economic policy, and the protection of United States national interests from foreign security threats...” “Special emphasis should be given to detecting and countering espionage and other threats and activities directed by foreign intelligence services against the United States Government, or United States corporations, establishments, or persons.”
 - 東側諸国インテリジェンス機関によるスパイ以外の活動(プロパガンダなど)への警戒高まる

”The agencies within the Intelligence Community shall... conduct intelligence activities necessary for the conduct of foreign relations and the protection of the national security of the United States”

CIA は”Collect, produce and disseminate foreign intelligence and counterintelligence, including information not otherwise obtainable”

- 国務省は”Overly collect information relevant to United States foreign policy concerns;”
- 前 EO の方向性踏襲

資料 6 議会にとっての「intelligence」と「propaganda」

議会にとっての「intelligence」と「propaganda」 1

- Senate Joint Resolution 77 (June 1961)
 - Fulbright 上院議員らが”a Joint Committee on Foreign Information and Intelligence”の設立を要請
 - Dulles CIA 長官は、”The information aspects of this resolution are not within my field of competence and responsibility.””foreign informational activities are overt”“intelligence activities... are largely of a secret character and are not directly related to the foreign informational activities of the Government”と回答
 - USIA も、”strongly opposing including information and intelligence activities in one Joint Committee”

議会にとっての「intelligence」と「propaganda」 2

- Church Committee Final Report (1976)

“CIA currently maintains a network of several hundred foreign individuals around the world who provide intelligence for the CIA and at times attempt to influence opinion through the use of covert propaganda...”

“Agencies not discussed here but which do conceivably contribute information relevant to the intelligence matters include the United States Information Agency...the Agency for International Development...and the Department of Agriculture...”

● Leo Cherne (1987)

● レーガン政権時代、一時期 Advisory Commission on Educational and Cultural Affairs と President’s Foreign Intelligence Advisory Board 双方に出席していた

“There had long been the Soviet insistence that our cultural and informational activities were merely a front for our intelligence operations as indeed the KGB arranges their own activity. U.S. activity was quite separate from the intelligence function...”

主要参考文献

池上嘉彦、『意味の世界-現代言語学から視る-』、NHK ブックス、1978 年。

池上嘉彦、『記号論への招待』、岩波書店、1995 年。

イレース・タンバ著・大島弘子訳、『意味論』、白水社、2013 年。

岩内亮一、高橋正泰、村田潔、青木克生、『ポストモダン組織論』、同文館出版、2005 年。

大月博司、山口善昭、高橋正泰、『経営学-理論と体系』、同文館出版、2008 年。

落合浩太郎編著、『インテリジェンスなき国家は減ぶ-世界の情報コミュニティー』、2011 年。

小谷賢、『インテリジェンス-国家・組織は情報をいかに扱うべきか-』、ちくま学芸文庫、2012 年。

小林良樹、『インテリジェンスの基礎理論』、立花書房、2011 年。

佐藤信夫、『レトリックの記号論』、講談社、1993 年。

高橋正泰、『組織シンボリズム-メタファーの組織論』、同文館出版、2006 年。

高橋正泰・清宮徹編訳、『ハンドブック 組織ディスコース研究』、同文館出版、2012 年。

高橋正泰、山口善昭、磯山優、文友彦、『経営組織論の基礎』、中央経済社、1998 年。

ナンシー・スノウ(訳:羽生浩一)、「真実は最良のプロパガンダー-エドワード・R・マローと JFK 施政下の米国文化情報局 (USIA)」、『Intelligence』第 13 号、20 世紀メディア研究所、2013 年。

日本記号学会編、『ポストモダンの記号論-情報と類像-』、1992 年、東海大学出版会。

PHP 総合研究所、『日本のインテリジェンス体制-変革へのロードマップ-』、2005 年。

丸山圭三郎、『文化記号学の可能性』、日本放送出版協会、1983 年。

Alfred North Whitehead, *Process and Reality*, Free Press, 1979.

Alfred Paddock Jr., *U.S. Army Special Warfare, Its Origins: Psychological and Unconventional Warfare, 1941-1952*, University Press of the Pacific, 2002.

Allen Hansen, *Public Diplomacy in the Computer Age*, Praeger, 1989.

Alvin A. Snyder, *Warriors of Disinformation: American Propaganda, Soviet Lies, and the Winning of the Cold War*,

- Arcade Publishing, 1995.
- Andrew Rathmell, "Towards Postmodern Intelligence," *Intelligence and National Security*, Vol.17, No.3, 2002.
- A. Ross Johnson, *Radio Free Europe and Radio Liberty: The CIA Years and Beyond*, Woodrow Wilson Center Press, 2010.
- Cees Wiebes, *Intelligence and the War in Bosnia, 1992-1995*, New Brunswick: Transaction Publishers, 2003.
- Charles W. Morris, *Foundations of the Theory of Signs*, University of Chicago Press, 1938.
- Christopher Grey, *Decoding Organization: Bletchley Park, Codebreaking and Organization Studies*, Cambridge University Press, 2012.
- Cord Meyer, *Facing Reality: From World federalism to the CIA*, University Press of America, 1982.
- Daniel Chandler, *Semiotics: The Basics*, Routledge, 2007.
- David Grant and Rick Iedema, "Discourse Analysis and the Study of Organizations," *Text - Interdisciplinary Journal for the Study of Discourse*, Volume 25, Issue 1, 2005.
- Edward W Barrett, *Truth is Our Weapon*, Funk & Wagnalls, 1953.
- Edward L. Bernays and Burnet Hershey, *The Case for Reappraisal of U.S. Overseas Information Policies and Programs*, Praeger, 1970.
- Evan Thomas, *The Very Best Men: The Daring Early Years of the CIA*, Simon & Schuster, 2006.
- Ferdinand de Saussure and Roy Harris, *Course in General Linguistics*, Open Court, 1998.
- Fitzhugh Green, *American Propaganda Abroad From Benjamin Franklin to Ronald Reagan*, Hippocrene, 1988.
- Gifford D. Malone, *Organizing the Nation's Public Diplomacy*, University Press of America: Boston, 1988.
- Gregory F. Treverton, Seth G. Jones, Steven Boraz, and Phillip Lipsky, *Toward a Theory of Intelligence: Workshop Report*, RAND Corporation, 2006.
- Hamilton Bean, "Organizational Culture and US Intelligence Affairs," *Intelligence and National Security*, Vol.24, No.4, 479-498, August 2009.
- Hugh Wilford, *The Mighty Wurlitzer: How the CIA Played America*, Harvard University Press, 2009.
- Harry H. Kendall, *A Farm Boy in the Foreign Service: Telling America's Story to the World*, 1st Books, 2003.
- Jon A. Wiant, "A Guide to the Teaching About Covert Action," *Intelligencer*, Volume 19, Number 2, Summer/Fall 2012.
- John W. Henderson, *The United States Information Agency*, Frederick A. Praeger, 1969.
- Karl E. Weick, *Sensemaking in Organizations*, SAGE, 1995.
- Kate Kenny, Andrea Whittle, and Hugh Willmott, *Understanding Identity & Organizations*, SAGE Publications, 2011.
- Kenneth J. Gergen, *An Invitation to Social Construction*, SAGE Publications, 2009.
- Kenneth Osgood, *Total Cold War: Eisenhower's Secret Propaganda Battle at Home and Abroad*, University Press of Kansas, 2008.
- Kenneth W. Thompson, *The Stanton Report Revisited*, University Press of America, 1987.
- Laura A. Belmonte, *Selling the American Way: U.S. Propaganda and the Cold War*, University of Pennsylvania

Press , 2010.

Leo Bogart, *Premises for Propaganda: The United States Information Agency's Operating Assumptions in the Cold War*, Free Press, 1976.

Leo Bogart, *Cool Words, Cold War: A New Look at U.S.I.A.'s Premises For Propaganda*, American University Press, 1995.

Lester Hajek, "TARGET: CIA," *Studies in Intelligence*, Volume 6, Issue Winter, 1962.

Lyman B. Kirkpatrick, Jr., *The US Intelligence Community: Foreign Policy and Domestic Activities*, Hill and Wang, 1973.

Mark Lawenthal, *Intelligence From Secrets to Policy*, Quarterly Press, 2002.

Martin J. Manning and Herbert Romerstein, *Historical Dictionary Of American Propaganda*, Greenwood Pub Group, 2004.

Michael Warner, "Wanted: A Definition of "Intelligence,"" *Studies in Intelligence*, Vol.46, No.3, 2002.

Nancy Snow, *Propaganda, Inc.: Selling America's Culture to the World*, Seven Stories Press, 2010.

Nancy Snow, "The USIA's New Line: Hard Sell," *Toward Freedom*, July 7, 1998.

Nicholas J. Cull, *The Cold War and the United States Information Agency: American Propaganda and Public Diplomacy, 1945-1989*, Cambridge University Press, 2009.

Norman Fairclough, *Analysing Discourse: Textual Analysis for Social Research*, Routledge, 2003.

Oren Stephens, *Facts to a Candid World: America's Overseas Information Program*, Stanford University Press, 1955.

Peter Gill, Stephen Marrin, and Mark Phythian, eds., *Intelligence Theory: Key Questions and Debates*, Routledge Press, 2009.

Philip H.J. Davies, *MI6 and the Machinery of Spying: Structure and Process in Britain's Secret Intelligence*, Routledge, 2004.

Philip H.J. Davies, "Ideas of Intelligence," In Richard J. Aldrich, Christopher Andrew, Wesley Wark and Wesley K. Wark eds., *Secret Intelligence: A Reader*, Routledge, 2009.

R.A.Norton, "Guide to Open Source Intelligence: A Growing Window into the World," *Intelligencer*, Volume 18, Number 2, Winter/Spring 2011.

Richard M. Rorty eds., *The Linguistic Turn: Essays in Philosophical Method*, University of Chicago Press, 1992.

Richard T. Arndt, *The First Resort of Kings: American Cultural Diplomacy in the Twentieth Century*, Potomac Books, 2007.

Robert E. Elder, *Information Machine: The United States Information Agency and American Foreign Policy*, Syracuse University Press, 1968.

Robert J. Kodosky, *Psychological Operations American Style: The Joint United States Public Affairs Office, Vietnam and Beyond*, Lexington Books, 2007.

Robert Weswood and Stephen Linstead eds., *The Language of Organization*, SAGE, 2001.

Ronald I. Rubin, *The Objectives of the U.S. Information Agency*, Praeger, 1966.

- Ronald Stamper, Kencheng Lieu, Mark Hafkamp and Yaser Ades, "Understanding the Roles of Signs and Norms in Organisations," *Journal of Behavior & Information Technology*, Vol.19 (1), 2000.
- Roy Godson, *Dirty Tricks or Trump Cards: U.S. Covert Action and Counterintelligence*, Transaction Publishers, 2000.
- Simona Tobia, *Advertising America: The United States Information Service in Italy (1945-1956)*, Edizioni Universitarie di Lettere Economia Diritto, 2008.
- Stephen Marrin, "Why Teach About Intelligence," *Intelligencer*, Vol.20, Number 1, Spring/Summer 2013.
- Suzanne Tietze, Laurie Cohen and Gillian Musson, *Understanding Organizations through Language*, SAGE, 2003.
- Theodore H. Tenniswood, "The Coordination of Collection," *Studies in Intelligence*, Volume 8, Issue Spring, 1964.
- Thomas C. Sorensen, *The Word war: The Story of American Propaganda*, Harper & Row, 1968.
- Sherman Kent, *Strategic Intelligence for American World Policy*, Princeton University Press, 1951.
- Umberto Eco, *A Theory of Semiotics*, Indiana University Press, 1978.
- United States Information Agency Public Liaison Office , *United States Information Agency: A Commemoration*, 1999.
- US Department of Defense, *Joint Publication 1-02 : Department of Defense Dictionary of Military and Associated Terms*, November 2013.
- US Department of State, *Foreign Relations of the United States*.
- Walter Laquer, *A World of Secrets: The Uses and Limits of Intelligence*, Basic Books, 1985.
- Wilhelm Agrell, "The Next 100 Years? Reflectionson the Future of Intelligence," *Intelligence and National Security*, Vol.27, No.1, February 2012.
- William J. Lahneman, "The Need for a New Intelligence Paradigm," *International Journal of Intelligence and Counterintelligence*, Vol.23, Issue 2, 2010.
- Wilson P. Dizard, *Inventing Public Diplomacy: The Story of the U.S. Information Agency*, Lynne Rienner, 2004.